

アオサギ観察会

2015年5月1日

意外なところで営巣中！



アオサギの巣といえば、高い木のとっぺんでというのが定番。ところが、必ずしもそうでない場合があるのです。たとえば、左の写真は岩の上にアオサギが立っているのが御覧いただけと思いますが、よく見ると地面にいくつもの巣がつくられています。ここは江差町の沖合400mにある高さ20m弱の小さな岩礁。吹き晒しの環境もさることながら、巣材集めひとつとっても大変な労力が要りそうです。

それでも、江差のコロニーは陸へ向かえば樹林があるだけ恵まれているほうです。世界には樹林も何も無い絶海の孤島で営巣するアオサギもいます。そんな場所で彼らはどうやって巣を作っているのでしょうか？ たとえば、モーリタニアの島住まいのアオサギは小枝の代わりにペリカンの骨を使うそうです（右の写真）。



意外な営巣場所
は陸上だけ

ではありません。使えるものがあれば水上でもお構いなしです。左の写真はブイの上に巣をつかった珍しい例（岩見沢幌向ダム）。樽状のブイで安定した営巣場所とはとても言えないようなところですが、あんな大きな巣を器用に載せているのはさすがです。



最後は同じ水

上でも一応樹木を利用してる例（瀬棚町）です。ここは農業用ため池で、この時期は水際のヤナギ林が水没します。右の写真では分かりにくいかもしれませんが、真ん中のしみのように見える部分に10ぐらいの巣があります。その多くは水面ぎりぎりで、中には半ば浸水し波に揺られているような巣も。何が彼らをこんな場所に追いやっているのか気になるところです。

